

令和6年度（2024年度）
知床世界自然遺産地域における
サケ科魚類モニタリング調査委託報告書



令和7年（2025年）3月

北海道

公益財団法人 知床財団

【目次】

1. はじめに	…1
2. 調査方法	…2
3. 調査結果および分析	…5
3－（１） 調査実施状況	…5
3－（２） 日別の推定稚魚降下数	…6
3－（３） 時間帯別の稚魚降下数	…8
3－（４） 総稚魚降下数の推定	…10
4. まとめ	…12
5. 令和6年度第2回河川工作物アドバイザー会議における調査 結果報告	…14
6. 付録	…21
1 調査実施状況詳細	…21
2 稚魚降下数データ詳細	…25

1. はじめに

知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画は、科学的知見に基づいた遺産地域の順応的管理を目的として平成 24 年（2012 年）に策定され、令和 4 年（2022 年）より第 2 期計画の運用が始まっている。第 2 期計画においてサケ類に関連するモニタリング項目は、稚魚降下数の把握という視点が新たに加えられることとなり、項目名が「河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数」となった。このモニタリング項目の評価基準は、遺産地域の各河川へサケ類が遡上して持続的に再生産していること、および河川工作物による遡上障害が実行可能な範囲で回避されていることとなっている。評価基準に達しているのか否かは、1) 遡上数、産卵床数、稚魚降下数および 2) 河川工作物の遡上および産卵床への影響という 2 点を指標としている。対象河川はルシャ川、テッパンベツ川およびルサ川の 3 河川であり、手法としてはカラフトマス等の親魚数、産卵床数および稚魚降下数の調査である。調査は稚魚降下数を偶数年（西暦）に、親魚数および産卵床数を奇数年（西暦）に実施することとなっている。

本事業では、モニタリングに係る調査の対象となっている 3 河川のうち、羅臼町ルサ川においてサケ科魚類の再生産状況を把握することを目的として、カラフトマスおよびサケの稚魚降下数調査を実施した。

2. 調査方法

ルサ川におけるカラフトマスおよびサケを対象とした稚魚降下数調査は、令和6年（2024年）4月下旬から6月下旬にかけての約2ヶ月間のうち、天候等の条件を考慮した上で週1回間隔を目処とし5月15日、21日、27日、6月4日、8日、12日、18日および26日に計8回実施した。調査初回が5月15日となったのは、例年よりも許認可へ日数を要したためである。なお、サケの降下期間をより正確に捉えて総稚魚降下数の推定精度を高めるため、知床財団独自の取り組みとして7月13日に1回の調査を追加実施し、分析データの一部に加えた。

調査場所はルサ川の河口から上流方向へ100m付近で2又した流路のうち、より水量の多い右岸流側とした（図1）。

稚魚捕獲網は目合い3.5mm、網口が縦50cm、横50cm、奥行きが80cmであり、網口を川の上流側へ向けて流心の付近（流れが強い場所）に1個設置した（写真1）。

捕獲時間は17時台から22時台までの1時間毎に基本的に15分間としたが、稚魚の入網が極めて多いと判断された場合には適宜短縮した。捕獲した稚魚は種別に計数後、速やかに捕獲地点付近へ放流した。なお、魚類の採取については特別採捕許可証（内水面特採第25号、令和6年5月8日付）に従い実施した。

各日の調査開始前には河川横断面積を測量するとともに（写真2）、横断面および捕獲網口で流速を計り、定法にて河川流量および網濾水量を算出した。なお、河川横断面積は捕獲網設置地点付近の2又した流路の分岐上流側にて測量した。これらの値をもとに1時間当たりの種別降下数を算出し、17時台から22時台の降下数を積算することにより日間推定降下数とした。また、非調査日の降下数については、調査日間を台形近似することにより推定した。なお、初回の調査日に捕獲があった場合には、次回調査との日間隔を初回の調査日

前に遡り、便宜的に日間降下数を 0 とした。調査の最終回に捕獲があった場合についても同様の方法を用いた。



図 1. ルサ川における稚魚捕獲網の設置地点



写真 1. ルサ川右岸流に設置した稚魚捕獲網



写真 2. 河川横断面積を測量する様子

3. 調査結果および分析

3 - (1) 調査実施状況

各調査実施日における開始時の天候、風の状況、河川水温、気温、河川流量および網濾水量は表1の通りであった。また、各日の調査地点付近の写真を含む、カラフトマスおよびサケの捕獲状況については、付録1へ掲載した。

表1. ルサ川におけるカラフトマスおよびサケの稚魚降下数調査を実施した日の状況

調査回	日付	天候	風	水温 (°C)	気温 (°C)	河川流量 (m ² /min.)	網濾水量 (m ² /min.)
1	2024/5/15	晴れ/曇り	微風	10.5	14.4	37.89	13.55
2	2024/5/21	晴れ/曇り	強風	7.6	7.9	29.46	11.26
3	2024/5/27	弱雨	無風	8.2	9.3	30.52	10.16
4	2024/6/4	曇り	弱風	8.6	7.6	23.39	8.33
5	2024/6/8	曇り	弱風	12.9	14.8	24.52	7.40
6	2024/6/12	快晴	無風	13.3	18.0	20.96	6.55
7	2024/6/18	曇り	微風	14.5	20.1	19.19	8.34
8	2024/6/26	晴れ/曇り	弱風	10.5	13.2	17.51	6.60

3 - (2) 日別の推定稚魚降下数

調査期間においてカラフトマスは5月15日、21日および27日において捕獲があり、6月4日以降にはなかった(図2)。カラフトマスの推定稚魚降下数(1時間当たり捕獲数の日計)は、5月21日が最も多く487個体だった。

サケは調査期間を通して増減しながら捕獲があり、6月4日に推定稚魚降下数が955個体と最多となり、6月18日に37個体と最小だった(図3)。

なお、各調査日における両種の時間帯別捕獲数詳細については、付録2へ掲載した。

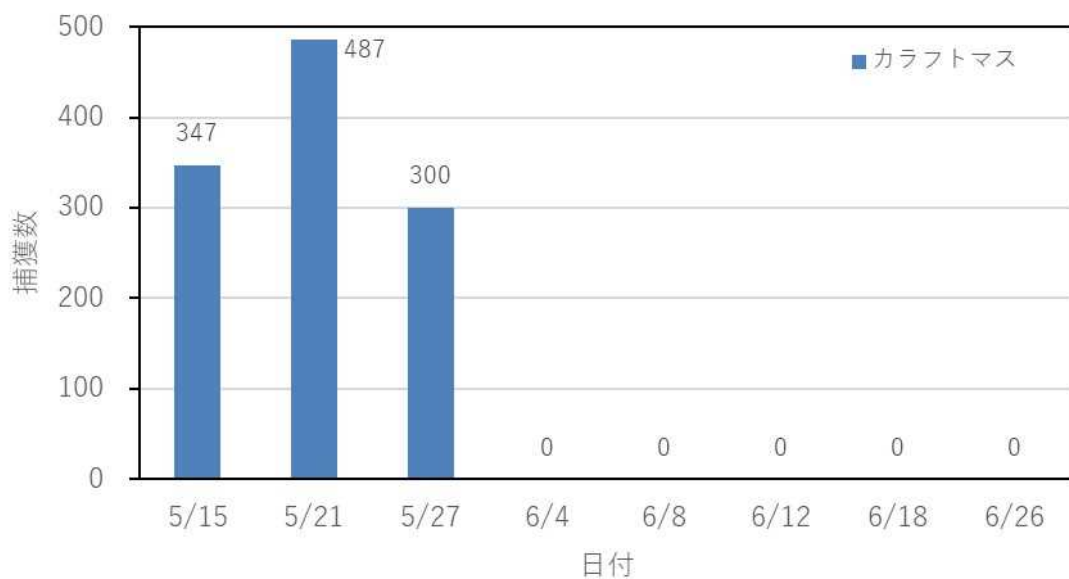


図2. ルサ川におけるカラフトマスの各調査日の推定稚魚降下数

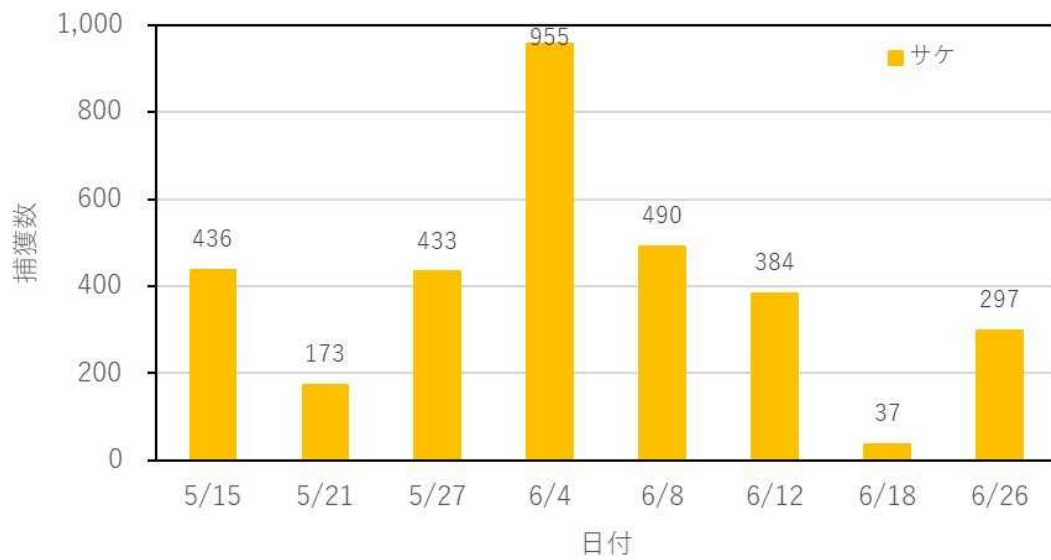


図 3. ルサ川におけるサケの各調査日の推定稚魚降下数

※ 補足として実施した 7 月 13 日はカラフトマスは捕獲はなく、サケの日間推定稚魚降下数は 11 個体であった。

3 - (3) 時間帯別の稚魚降下数

カラフトマスの降下は捕獲があった5月15日、21日および27日ともに20時台以降であった。いずれの調査日においても20時台が最多であり、22時台にかけて減少するという傾向がみられた(図4)。

サケは5月15日から6月4日まではカラフトマスと同様に20時台以降に降下があり、20時台が最多であり、22時台にかけて減少するという傾向がみられた(図5)。6月8日以降はいずれの調査日においても21時台が最多となった。また、6月8日にのみわずかであるが18時台に降下があり、6月18日以降は20時台以前の降下はなかった。

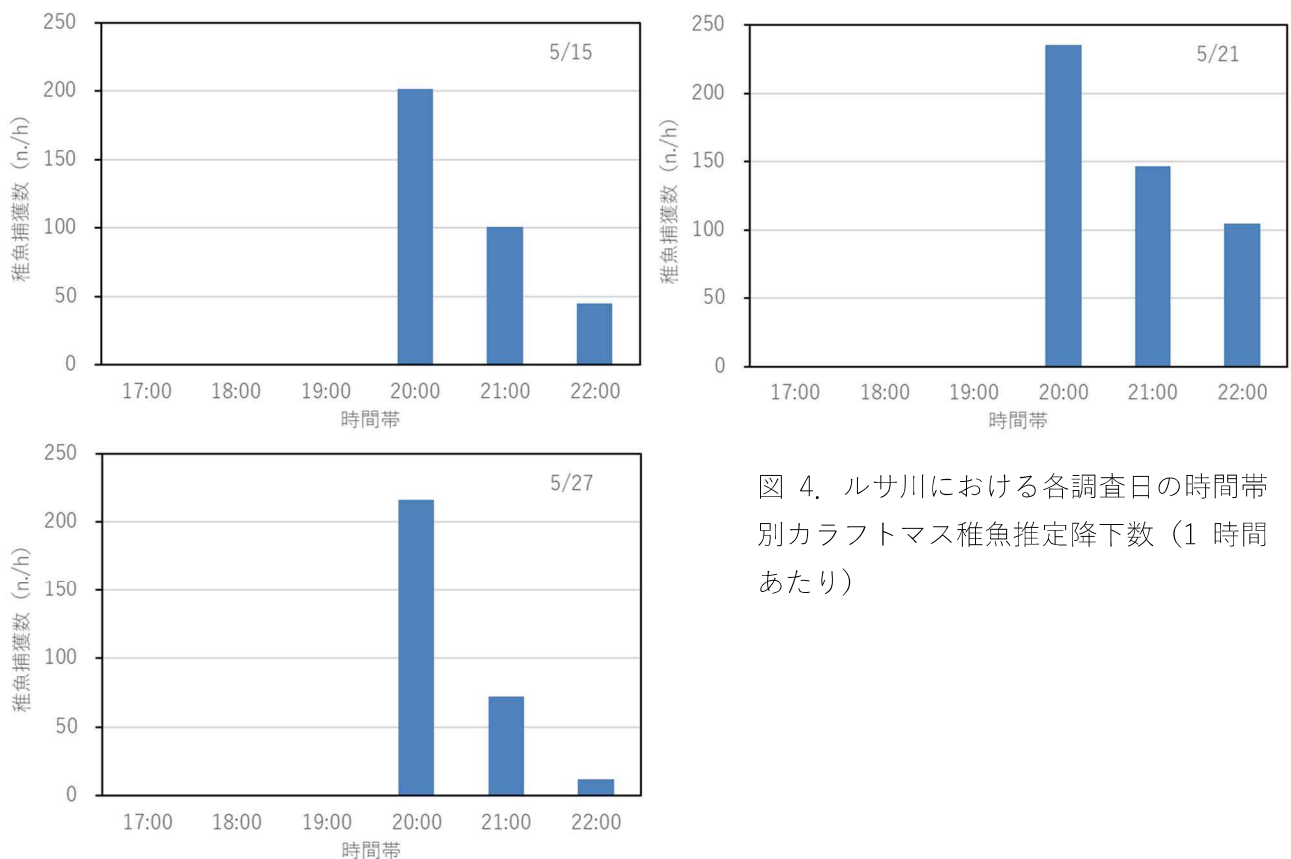


図 4. ルサ川における各調査日の時間帯別カラフトマス稚魚推定降下数(1 時間あたり)

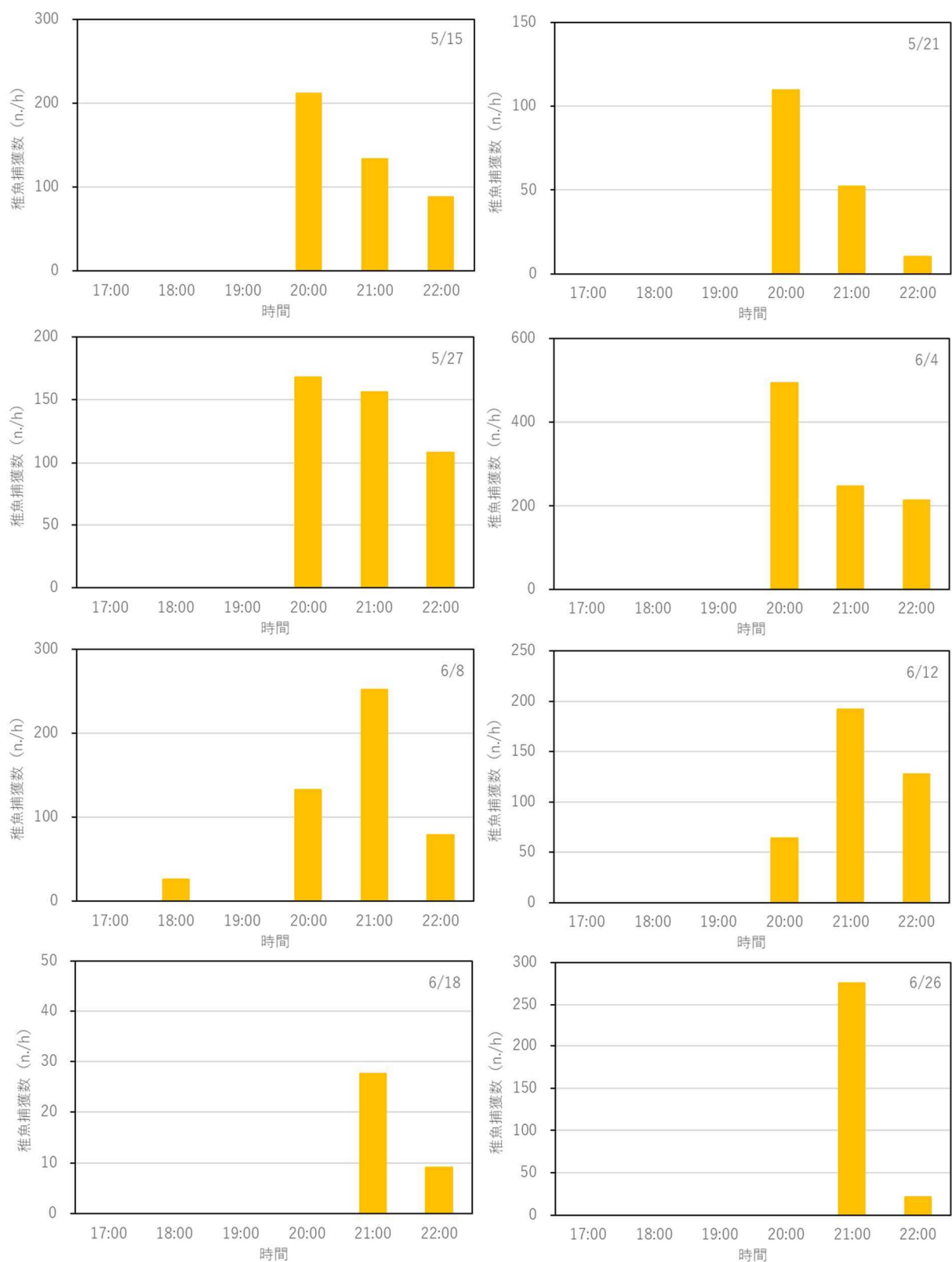


図 5. ルサ川における各調査日の時間帯別サケ稚魚推定降下数（1 時間あたり）

※ 補足として実施した 7 月 13 日のサケは 22 時台のみで降下があり、推定数は 11 個体であった。

3－（４） 総稚魚降下数の推定

調査日間の稚魚降下数を台形近似させることにより非調査実施日の日間の稚魚降下数を推定した。調査期間を通した日間の推定稚魚降下数を積算すると総稚魚降下数はカラフトマス 7,103 個体、およびサケ 20,455 個体となった（図 6）。

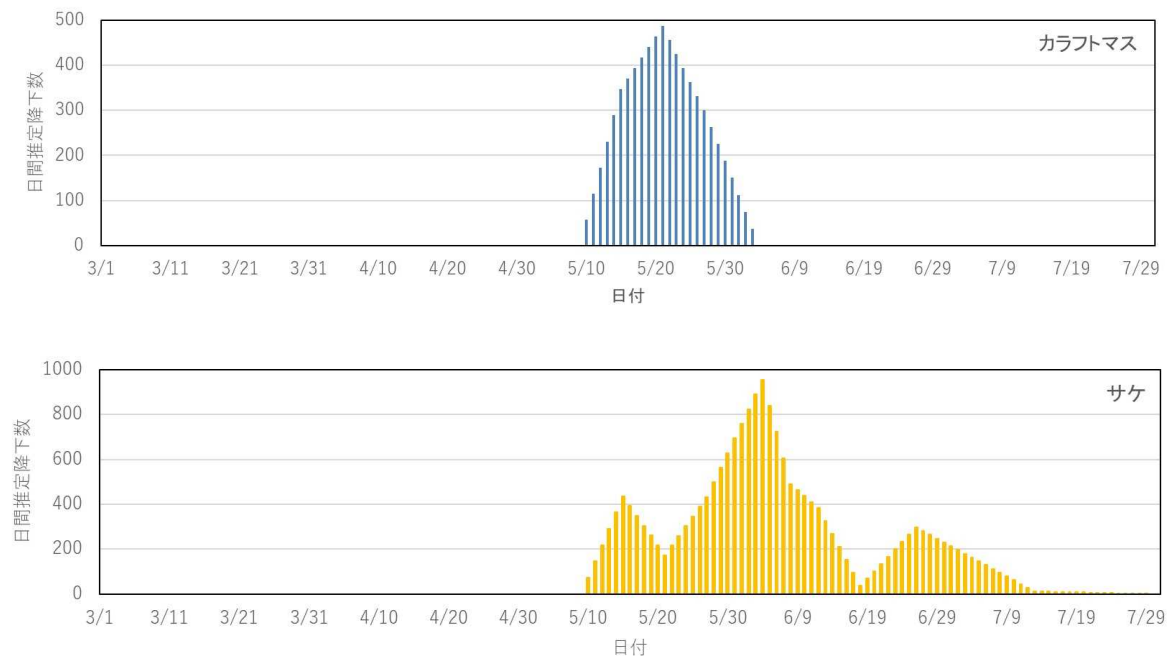


図 6. ルサ川におけるカラフトマス（上図）およびサケ（下図）の日間推定稚魚降下数

令和 6 年（2024 年）のルサ川におけるカラフトマスおよびサケの稚魚降下調査は、令和 2 年（2020 年）以降で最も開始が遅く 5 月 15 日となった。そのため、稚魚降下数の年変化を比較するためには、データとして不十分だった。そこで過去の調査年の総降下数のうち、5 月 15 日以降の比率を算出することにより、令和 6 年（2024 年）の総降下数を推定した。令和 2 年（2020 年）から令和 5 年（2023 年）の 5 月 15 日以降の総降下数に占める比率は 21.3-60.1%の範囲であった（表 2）。この比率をもとに令和 6 年（2024 年）の 5 月 15 日以降の降下数 6,237 個体から推定した令和 6 年（2024 年）の総降下数は 10,383-

29,283 個体、中央値 19,833 個体となった。同様にサケについても推定すると、総降下数は 28,414-34,211 個体、中央値 31,312 個体であった（表 3）。推定範囲および中央値からみても、カラフトマスおよびサケともに 2020 年以降では最少の水準であった。

表 2. 過去の調査におけるカラフトマスの推定総降下数、5 月 15 日前後の推定降下数および比率と 2024 年の推定総降下数（中央値（最小値－最大値））。（2023 年は知床財団データ）

年	調査期間	総降下数	5/14以前		5/15以降	
			推定数	(%)	推定数	(%)
2020	4/8－6/13	113,702	58,570	51.5	55,132	48.5
2021	3/27－7/29	50,318	20,094	39.9	30,224	60.1
2022	3/31－7/21	256,557	114,131	44.5	142,427	55.5
2023	4/28－7/18	95,038	74,796	78.7	20,241	21.3
2024	(5/15－7/13)	19,833 (10,383-29,283)			6,237	(21.3-60.1)

表 3. 過去の調査におけるサケの推定総降下数、5 月 15 日前後の推定降下数および比率と 2024 年の推定総降下数（中央値（最小値－最大値））。（2023 年は知床財団データ）

年	調査期間	総降下数	5/14以前		5/15以降	
			推定数	(%)	推定数	(%)
2020	4/8－6/13	40,492	17,572	43.4	22,920	56.6
2021	3/27－7/29	50,560	16,103	31.8	34,458	68.2
2022	3/31－7/21	53,308	19,913	37.4	33,395	62.6
2023	4/28－7/18	131,577	54,692	41.6	76,885	58.4
2024	5/15－7/13	31,312 (28,414-34,211)			19,365	(56.6-68.2)

4. まとめ

令和 6 年（2024 年）のルサ川におけるカラフトマスおよびサケの稚魚降下調査は、許認可に時間を要したために令和 2 年（2020 年）以降で最も開始が遅かったが、カラフトマスおよびサケともに採捕があった。両種ともに調査初回の 5 月 15 日から確認され、カラフトマスは 5 月 27 日まで、サケは 7 月 13 日まで確認された。他方で両種ともに調査開始日の推定降下数が少なくはなかったため、調査開始以前の降下数を過年に実施した調査データを使用することにより推定を試みた。その結果、過年の調査期間にも長短があったため推定値の幅が大きかったが、カラフトマスで 19,833(10,383-29,283)個体、サケで 31,312(28,414-34,211) 個体となり（中央値（最小－最大値））、両種ともに 2020 年以降の調査で最少の水準となった。稚魚降下数の年変化の要因については、調査開始年から間もなく未だ不明であるため、今後のモニターが重要である。特にカラフトマスについては、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所さけます部門資源増殖部による北海道への来遊状況 (<https://www.fra.go.jp/shigen/salmon/sokuhou.html>) では減少傾向が著しいため、注視する必要がある。

ルサ川における長期モニタリングに係るカラフトマスを対象とした近年の調査は、秋期の親魚遡上数調査が 2019 年、2021 年および 2023 年に、春期の稚魚降下数調査が試行を含め 2020 年から 2022 年および 2024 年（本調査）に実施されている。また 2022 年には親魚遡上数調査が、2023 年には稚魚降下数調査が知床財団の独自調査として実施されている。これらの調査から得られた推定値をもとに親魚の年級ごとの再生産効率（翌年の稚魚数/親魚数（親魚 1 個体から何個体の稚魚が降下するのか））を算出した。その結果、2023 年に帰した親魚数は 130 個体、翌年（2024 年）の稚魚数は 19,833 個体（10,383-29,283 個体）であり（中央値（最小－最大値））、再生産効率（中央値（最小－最大値））は 152.56（79.87-

225.25) となった(表4)。2023 年回帰親魚の再生産効率を過年と比較すると、最小値と最大値の差が大きいですが、少なくとも最低だった 2021 年回帰親魚よりは高い水準であることが示唆された。再生産効率の高低は、カラフトマスの再生産に係る遡上・産卵から孵化、および降下に至る河川環境を直接的に表す指標となるため、今後とも注視することが重要である。

表4. ルサ川におけるカラフトマスの再生産効率

親魚の 回帰年	親魚数	翌年の 稚魚数	再生産効率 (翌年の稚魚数/親魚数)
2019	660	113,702	172.28
2020		50,318	
2021	18,802	256,557	13.65
2022	769	95,038	123.59
2023	130	19,833	152.56
		(10,383-29,283)	(79.87-225.25)

※2022 年の親魚数および翌年の稚魚数(2023 年稚魚数)
は知床財団データ

5. 令和6年度第2回河川工作物アドバイザー会議における調査結果報告

令和7年1月28日に開催された令和6年度第2回河川工作物アドバイザー会議において、今年度実施された長期モニタリングの調査として結果を口頭で報告した。報告では、以下のプレゼン資料をもとに説明を行った。

令和6年度 長期モニタリング結果について (サケ類)

北海道森林管理局
北海道
公益財団法人 知床財団

北海道森林管理局：令和6年度知床ルシャ川等におけるサケ類の稚魚降下数調査事業
北海道：令和6年度（2024年度）サケ科魚類モニタリング調査委託業務

調査概要

○知床世界自然遺産地域

第2期長期モニタリング計画モニタリング項目No.16

「河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング」

○対象魚種

遡上・産卵床数調査：カラフトマス

稚魚降下数調査：カラフトマス、サケ

○モニタリング対象の河川

ルシャ川・テッパンベツ川 → 北海道森林管理局

ルサ川 → 北海道

○調査実施状況

遡上・産卵床数調査と稚魚降下数調査をそれぞれ隔年実施

遡上・産卵床数：2012年試行、13, 15, 17, 19, 21, 23年

稚魚降下数：2019年より試行、22, 24年

調査方法

○稚魚降下数調査

実施期間・回数（基本的に4月下旬～6月中下旬に8回）

- ・ルシャ川、テッパンベツ川

6/3-17に8回（7/2に1回補足）計9回

- ・ルサ川

5/15-6/26に8回（7/13に1回補足）計9回

※4月～5月上旬に調査が出来なかったのは保安林管理道を通行できなかったこと、および前年よりも許認可に時間を要してしまったため

方法

- ・17～22時台まで1時間に1回
基本的に15分間
捕獲用の網（網口50cm × 50cm）を1～2個設置
- ・入網したカラフトマスとサケ稚魚を種別に計数後、直ちに放流
- ・河川流量と網濾水量から1時間当たりの入網数を算出
- ・17～22時台の降下数を積算して日間の降下数とした
- ・調査のない日は調査日数を台形近似して推定



知床林道の倒木 (5/22)



○網の設置状況と捕獲した稚魚



ルシャ川



テッパンベツ川



ルサ川



ルシャ川で捕獲した野生サケ稚魚 (6/7)

調査結果

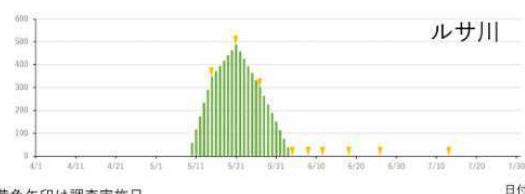
○日間推定降下数の推移 (カラフトマス)



調査期間：6/3－7/2 (9回)
採捕期間：－
最多日：－
推定総数：－



調査期間：6/3－7/2 (9回)
採捕期間：6/5－6/15
最多日：6/7 (194個体)
推定総数：718個体



調査期間：5/15－7/13 (9回)
採捕期間：5/15－5/27
最多日：5/21 (487個体)
推定総数：7,103個体
(5/15以降の推定数は6,237個体)

※ 黄色矢印は調査実施日

日付

○2024年調査開始前を含む降下数の推定 (カラフトマス)

テッパンベツ川

調査期間は異なるが、2020～2023年6/3以降の推定数は全体の0.3～12.0%の範囲であったことを活用、2024年6/3以降の718個体を引き延ばすことにより、目安として2024年の総降下数（中央値（最大・最小値））を算出

→ 130,309 (5,956～254,662) 個体

テッパンベツ川

年	調査期間	総降下数	6/2以前		6/3以降	
			推定数	(%)	推定数	(%)
2020	5/6～6/17	151,733	149,942	98.8	1,792	1.2
2021	5/14～6/30	29,291	25,763	88.0	3,529	12.0
2022	4/29～7/5	33,555	33,460	99.7	95	0.3
2023	5/12～7/5	71,321	70,203	98.4	1,118	1.6
2024	(6/3～7/2)	130,309			718	(0.3-12.0)
		(5,956-254,662)				

※2024年の総降下数は中央値。カッコは最大・最小値。2023年は知床財団データ

ルサ川

年	調査期間	総降下数	5/14以前		5/15以降	
			推定数	(%)	推定数	(%)
2020	4/8～6/13	113,702	58,570	51.5	55,132	48.5
2021	3/27～7/29	50,318	20,094	39.9	30,224	60.1
2022	3/31～7/21	256,557	114,131	44.5	142,427	55.5
2023	4/28～7/18	95,038	74,796	78.7	20,241	21.3
2024	(5/15～7/13)	19,833			6,237	(21.3-60.1)
		(10,383-29,283)				

※2024年の総降下数は中央値。カッコは最大・最小値。2023年は知床財団データ

ルサ川

同様に2020～2023年5/15以降の推定数は全体の21.3～60.1%の範囲であったことを活用、2024年5/15以降の6,237個体を引き延ばすことにより、目安として2024年の総降下数（中央値（最大・最小値））を算出

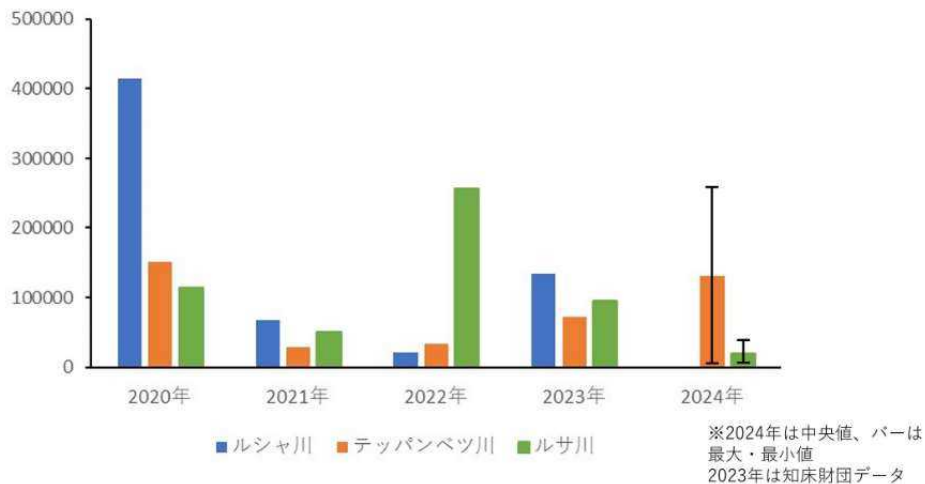
→ 19,833 (10,383～29,283) 個体

例：2022年ルサ川（推定降下数256,557個体）



- ルシャ川は捕獲数0であったため不明
- テッパンベツ川は約0.6～25.5万個体と差が大きい
→ 降下の盛期が含まれなかった
- ルサ川は約1～3万個体

○3河川の推定降下数の年変化（カラフトマス）



- ルシャ川は捕獲数0のため、テッパンベツ川では差が大きいために年変化の中の2024年の状況については不明
- ルサ川は約1～3万個体であり、2020年以降で最少の水準

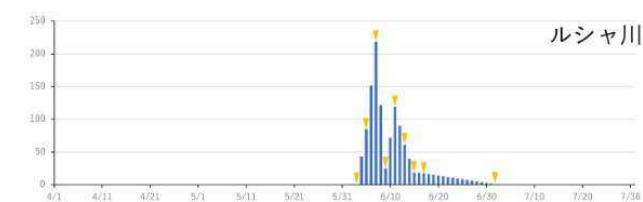
○3河川におけるカラフトマスの再生産効率と回帰率

	親魚の 回帰年	親魚数	翌年の 稚魚数	再生産効率 (翌年の稚魚数/親魚数)	稚魚の年級	稚魚数	翌年の 回帰親魚数	回帰率 (回帰親魚数/稚魚数)
ルシャ川	2019	11,838	414,885	35.05	2020	414,885	10,686	0.03
	2020	66,330	67,883	1.02	2021	67,883	—	—
	2021	10,686	21,200	1.98	2022	21,200	3,812	0.18
	2022	—	134,074	—	2023	134,074	—	—
	2023	3,812	—	—	2024	—	—	—
テッパンベツ川	2019	8,052	151,733	18.84	2020	151,733	5,232	0.03
	2020	20,643	29,291	1.42	2021	29,291	—	—
	2021	5,232	33,555	6.41	2022	33,555	1,722	0.05
	2022	—	71,321	—	2023	71,321	—	—
	2023	1,722	130,309 (5,956-254,662)	75.67 (3.46-147.89)	2024	130,309 (5,956-254,662)	—	—
ルサ川	2019	660	113,702	172.28	2020	113,702	18,802	0.17
	2020	—	50,318	—	2021	50,318	769	0.02
	2021	18,802	256,557	13.65	2022	256,557	130	0.0005
	2022	769	95,038	123.59	2023	95,038	—	—
	2023	130	19,833 (10,383-29,283)	152.56 (79.87-225.25)	2024	19,833 (10,383-29,283)	—	—

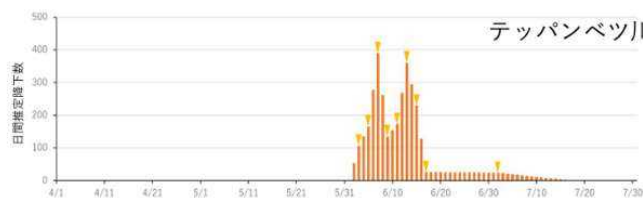
※2023年回帰親魚の再生産効率は翌年（2024年）の稚魚数の中央値、最小・最大値とより算出。2023年3河川の稚魚数、2022年ルサ川の親魚数は知床財団データ

- 2023年回帰親魚の再生産効率（中央値（最小 - 最大値））はテッパンベツ川75.67（3.46-147.89）、ルサ川152.56（79.87-225.25）

○日間推定降下数の推移（サケ）



調査期間：6/3－7/2（9回）
採捕期間：6/5－6/17
最多日：6/7（218個体）
推定総数：1,193個体



調査期間：6/3－7/2（9回）
採捕期間：6/3－7/2
最多日：6/7（389個体）
推定総数：3,673個体
（6/3以降の推定数は3,620個体）



調査期間：5/15－7/13（9回）
採捕期間：5/15－7/13
最多日：6/4（955個体）
推定総数：20,455個体
（5/15以降の推定数は19,365個体）

※ 黄色矢印は調査実施日

○2024年調査期間前を含めた推定降下数の範囲（サケ）

ルシャ川

年	調査期間	総降下数	6/2以前		6/3以降	
			推定数	(%)	推定数	(%)
2020	5/6-6/17	12,154	8,562	70.4	3,592	29.6
2021	5/14-6/30	8,220	5,269	64.1	2,951	35.9
2022	4/29-7/5	4,512	2,703	59.9	1,808	40.1
2023	5/12-7/5	20,456	15,703	76.8	4,753	23.2
2024	6/3-7/2	4,056 (2,977-5,135)			1,193 (23.2-40.1)	

カラフトマスと同様に2020～2023年データを活用、2024年推定数を調査期間で引き延ばして総降下数（中央値、最大・最小値）を目安として算出

テッパンベツ川

年	調査期間	総降下数	6/2以前		6/3以降	
			推定数	(%)	推定数	(%)
2020	5/6-6/17	32,533	8,268	25.4	24,265	74.6
2021	5/14-6/30	38,556	21,684	56.2	16,873	43.8
2022	4/29-7/5	3,245	0	0.0	3,245	100.0
2023	5/12-7/5	27,592	17,616	63.8	9,976	36.2
2024	6/3-7/2	6,816 (3,620-10,012)			3,620 (36.2-100.0)	

ルシャ川は約0.3～0.5万個体で最少だった2022年と類似した水準

テッパンベツ川は約0.4～1万個体で最少だった2022年よりは多い水準

ルサ川

年	調査期間	総降下数	5/14以前		5/15以降	
			推定数	(%)	推定数	(%)
2020	4/8-6/13	40,492	17,572	43.4	22,920	56.6
2021	3/27-7/29	50,560	16,103	31.8	34,458	68.2
2022	3/31-7/21	53,308	19,913	37.4	33,395	62.6
2023	4/28-7/18	131,577	54,692	41.6	76,885	58.4
2024	5/15-7/13	31,312 (28,414-34,211)			19,365 (56.6-68.2)	

ルサ川は約2.8～3.4万個体、2020年以降最少の水準

※2024年の総降下数は中央値、カッコは最大・最小値、2023年は知床財団データ

○3河川の推定降下数の年変化（サケ）



- ルシャ川は2022年を除き3河川で最少
- ルサ川はいずれの調査年でも他の2河川よりも多い
- 3河川の増減傾向は異なる

まとめ

- ルシャ川・テッパンベツ川で6/3-7/2に9回、ルサ川で5/15-7/13に9回の稚魚降下数調査を実施

○カラフトマス

- 過去データをもとに2024年の稚魚降下数を推定するとテッパンベツ川約0.6-25.5万個体、ルサ川約1-3万個体、ルシャ川は捕獲がなかったため不明
- ルシャ川は捕獲数が0だったため、テッパンベツ川では推定値の差が大きかったため年変化の中の2024年の状況は不明、ルサ川は2020年以降最少の水準
- 2023年回帰親魚の再生産効率（中央値（最小 - 最大値））はテッパンベツ川75.67（3.46-147.89）、ルサ川152.56（79.87-225.25）

○サケ

- 過去データをもとに2024年の稚魚降下数を推定するとルシャ川は約0.3-0.5万個体、テッパンベツ川約0.4-1万個体、ルサ川約2.8-3.4万個体
- ルシャ川は2022年と類似した水準、テッパンベツ川は最少だった2022年より多い水準、ルサ川は2020年以降最少の水準
- 3河川の増減傾向は異なる

6. 付録

1. 調査実施状況詳細

第1回			
調査河川名	ルサ川	天候	晴れ/曇り
調査日	2024年5月15日（水）	水温	10.5℃（16：30）
調査時刻	16:00－22:30	気温	14.4℃（16：30）
調査概要・ 周辺写真	 調査地点下流側の様子		
	河床には緑色の藻が繁茂していた。19時台までカラフトマスおよびサケの捕獲はなかったが、20時台以降に両種ともに捕獲があった。 調査員：野別貴博、八木議大		

第2回			
調査河川名	ルサ川	天候	晴れ/曇り
調査日	2024年5月21日（火）	水温	7.6℃（16：30）
調査時刻	16:00－22:30	気温	7.9℃（16：30）
調査概要・ 周辺写真	 網設置状況		
	強風だったが、調査自体に支障はなかった。河床の緑色の藻が一面に前回調査時よりも繁茂していた。前回調査時と同様に20時台以降にカラフトマスおよびサケともに捕獲があった。 調査員：野別貴博、八木議大		

第3回			
調査河川名	ルサ川	天候	弱雨
調査日	2024年5月27日（月）	水温	8.2℃（16：30）
調査時刻	16:00－22:30	気温	9.3℃（16：30）
調査概要・ 周辺写真	 ルサ川下流部調査地点周辺の様子		
	河床の緑色の藻は繁茂している状態が継続していた。前回調査時までと同様に両種ともに20時台以降に捕獲があった。 調査員：野別貴博、八木議大		

第4回			
調査河川名	ルサ川	天候	曇り
調査日	2024年6月4日（火）	水温	8.6℃（16：30）
調査時刻	16:00－22:30	気温	7.6℃（16：30）
調査概要・ 周辺写真	 網設置状況		
	融雪水による影響がほぼなくなった様子で河川流量が通常状態となった。サケは20時台以降に捕獲があったが、カラフトマスの捕獲はなかった。 調査員：野別貴博、八木議大		

第5回			
調査河川名	ルサ川	天候	曇り
調査日	2024年6月8日（土）	水温	12.9℃（16：30）
調査時刻	16:00－22:30	気温	14.8℃（16：30）
調査概要・ 周辺写真	 網設置状況		
	前回調査時と同様にカラフトマスの捕獲はなかった。サケは17時台および19時台を除き捕獲があった。 調査員：野別貴博、八木議大		

第6回			
調査河川名	ルサ川	天候	快晴
調査日	2024年6月12日（水）	水温	13.3℃（16：30）
調査時刻	16:00－22:30	気温	18.0℃（16：30）
調査概要・ 周辺写真	 調査地上流側の様子		
	河床の緑色の藻が少なくなり始めた。カラフトマスの捕獲はなかったが、サケは20時台以降に捕獲された。 調査員：野別貴博、八木議大		

第7回			
調査河川名	ルサ川	天候	曇り
調査日	2024年6月18日（火）	水温	14.5℃（16：30）
調査時刻	16:00－22:30	気温	20.1℃（16：30）
調査概要・ 周辺写真	 網設置状況		
	河床の緑色の藻がほとんどなくなった。サケのみ21時台以降に捕獲があった。 調査員：野別貴博、八木議大		

第8回			
調査河川名	ルサ川	天候	晴れ/曇り
調査日	2024年6月26日（水）	水温	10.5℃（16：30）
調査時刻	16:00－22:30	気温	13.2℃（16：30）
調査概要・ 周辺写真	 網設置状況		
	サケのみ21時台以降に捕獲があった。入網はなかったが、知床橋下で河川内をライトで照らしていると通常サイズよりもやや大きいカラフトマス稚魚を目視した。 調査員：野別貴博、八木議大		

2. 稚魚降下数データ詳細

河川名	ルサ川
魚 種	カラフトマス
調査内容	稚魚降下数

時間		1回目 5月15日（水）		2回目 5月21日（火）		3回目 5月27日（月）		4回目 6月4日（火）	
		遡上数	降下数	遡上数	降下数	遡上数	降下数	遡上数	降下数
1	17：00－17：15		0		0		0		0
2	18：00－18：15		0		0		0		0
3	19：00－19：15		0		0		0		0
4	20：00－20：15		18		15		9		0
5	21：00－21：15		9		14		6		0
6	22：00－22：15		4		10		1		0

時間		5回目 6月8日（土）		6回目 6月12日（水）		7回目 6月18日（火）		8回目 6月26日（水）	
		遡上数	降下数	遡上数	降下数	遡上数	降下数	遡上数	降下数
1	17：00－17：15		0		0		0		0
2	18：00－18：15		0		0		0		0
3	19：00－19：15		0		0		0		0
4	20：00－20：15		0		0		0		0
5	21：00－21：15		0		0		0		0
6	22：00－22：15		0		0		0		0

河川名	ルサ川
魚 種	サケ
調査内容	稚魚降下数

時間		1回目 5月15日（水）		2回目 5月21日（火）		3回目 5月27日（月）		4回目 6月4日（火）	
		遡上数	降下数	遡上数	降下数	遡上数	降下数	遡上数	降下数
1	17：00－17：15		0		0		0		0
2	18：00－18：15		0		0		0		0
3	19：00－19：15		0		0		0		0
4	20：00－20：15		19		7		7		44
5	21：00－21：15		12		5		13		22
6	22：00－22：15		8		1		9		19

時間		5回目 6月8日（土）		6回目 6月12日（水）		7回目 6月18日（火）		8回目 6月26日（水）	
		遡上数	降下数	遡上数	降下数	遡上数	降下数	遡上数	降下数
1	17：00－17：15		0		0		0		0
2	18：00－18：15		2		0		0		0
3	19：00－19：15		0		0		0		0
4	20：00－20：15		10		5		0		0
5	21：00－21：15		19		15		3		26
6	22：00－22：15		6		10		1		2

表紙写真 ルサ川下流部の様子（6月8日）